



# 1年生の公園探検を思い出そう

社会科で「災害」のことを学習し始めました。

地震災害、火山災害、風水害、斜面災害、雪氷災害など、自然災害には様々な種類があります。

それを一つ一つ順番に学んでいくことにも意味はあるのですが、それだとしても学習内容が「遠いもの」になりがちです。

火山災害とはこういうものなんだ・・・

うーん恐ろしい。

津波でこんな被害があってね・・・

それは大変だ。

こうした学びには、なかなか実感がわきにくいです。

なぜなら、そこに自分の「体験」がプラスされていないからです。

下水処理の仕組みについて学んだ時に、メタウォーターにみんなで見学に行ったのは、「体験」をプラスするためです。

愛知用水の話が実感や感動を伴って学べるのは、その愛知用水の水が瀬戸に流れ、みんなで訪れた日間賀島にも通っているからです。

発電について学ぶ時に簡易発電キットを使ったこともそうですし、瀬戸倉ミュージアムで実際の焼き物に触れたりしたこともそうですし、祭りに神輿を作って参加したこともそうです。

それら全ては、インターネットで調べればすぐ出てくる情報ばかりですが、やはり検索しただけの情報にはストーリーを実感するための「体験」がないのです。

その意味で、災害の学習は中々難しいです。

例えば私は、5年前の北海道地震で「ブラックアウト」という大規模停電を経験しました。

その時のことは、すでに教室でも語り伝えていますが、残念ながらそれを

子供たちに「体験」させることはできません。

これは、津波や火山や土砂崩れの恐ろしさを伝えることもそうです。

体験して実感することが難しい内容なのです。

こういう時は、できるだけ身近な「モノ」から学習内容に迫るのがよいとされています。

全ての社会的事象はつながっているのです、遠くの大きな事象を表面的に学ぶよりは、近くの小さな事象から学習内容に一步步ずつ迫っていく方が、実感に近づいていきやすいからです。

そこで、今回の災害の話も、ごく身近なところから学習をスタートすることにしました。

扱った身近な素材は、「公園」です。

1年生で、公園探検に出かけた時のことを覚えているでしょうか。

あの探検は、実は今の勉強に確実につながっています。

ちょっとだけタイムスリップしたつもりで、以下の文章を読んでみましょう。

私が過去に一度だけ1年生を担当した時の通信です。(この内容をもとにして、昨日の社会の授業を行いました。)

=====抜粋ここから=====

第1時。

最初は、石上神宮の隣にある公園に探検に行きました。

持ち物は、筆記用具、探検バッグ、生活科のノートです。

出発する前に、次の事を準備しておきました。

全て、ノートに書き記しておくことです。

①日付をかく。

②「こうえんにあるもの」とタイトルをかいて、赤枠で囲む。

③列挙の番号を書く。

他の学年でも、探検に行く際に必ず教えている内容です。

ノートに学習内容をきちんと残し、後から見返しやすいようにするためにとても大切なことです。

書けたかどうか、全員のノートをチェックし、丸をつけました。

ここまで完了してから、いざ公園へ出発です。

みんなは、外に行けるということだけでウキウキしていました。

ウキウキしすぎて転んでしまい、私のおんぶで行き来する子ども数名いたほどです。(笑)

公園に到着した後は、さっそく中にあるものを調べました。  
子どもたちは、公園にあるものを次々にノートに書いていきます。  
「列挙」の段階です。

「3つ書けたら合格です」と伝えておきましたが、どの子もその目標を大きく超えて鉛筆を走らせました。

続いて2時間目。

パソコン室にて、調べてきた内容を発表しました。

次々に手が拳がり、黒板はたちまち発表で埋め尽くされました。

ブランコ、シーソー、すべり台、ベンチ、テーブル、屋根、手すり、道、看板、ライト、トイレ、水道、小屋などなど

探検に欠席していた子もいたため、その時に撮った写真を見せつつ、発表を進めました。

続いて、「分類」の段階です。

それぞれの物は、何のためにつくられたものですか。

公園に置かれている物の、目的を問いました。

目的ごとに、公園内の設備は仲間分けが可能です。

ブランコやシーソーは、遊ぶため。

ベンチやテーブルは、休むため。

手すりやなだらかな道は、体の不自由な人のため。

それぞれ、相談しながら意見を出し合いました。

続けて、次のように問いました。

「公園」に、なくてはならないものを3つ選ぶとしたらどれですか。

話し合いは、白熱しました。

特に盛り上がったのは、次の2つの論点です。

①公園に、遊具はあるかいないか。

②公園に、トイレはあるかいないか。

ある子は、「遊具は絶対いる！」と主張しました。

公園は、遊ぶところだから遊具が絶対に必要だということです。

これに反論した子が数名。

「遊具の無い公園もあります。」と応戦しました。

奈良公園などでは、ほとんど遊具を見たことがないということです。

続けて、トイレの件です。

トイレは、多くの子が「必要」と考えました。

これに橋和田君が真っ向から反対します。

「公園にトイレはいらないと思います。したくなったら、そのへんですればいいし、トイレがない方が遊ぶ場所が広がるからです。」

野性味あふれる意見を聞いて、一同大爆笑となりました。

また、他の子からも「トイレがない公園もあるよ。」との声も上がって、中々決着が付きません。

大まかに言うと「遊ぶ派」の子たちは、遊具を全面的に支持。

「休む派」の子たちは、トイレやベンチを支持しました。

そこで、1つの公園だけではなく、別の公園にも行って比較した上で、再度公園に必要なものを検討しようということになりました。

2つ目に行ったのは、憩の家近くにある公園（正式名称がわかりませんでした。）です。

同じく、公園にあるものを列挙で書き出し、学校へ戻りました。

この公園で新たに見つかったのは、噴水、池、ばねの遊具でした。

その他は、ほぼ全てのものが同様に公園にありました。

その後、再度公園に必要なものを検討したわけですが、これまた話し合いは白熱して決着が付きません。

そもそも、「公園にとって一番大切な目的は何か」という点において絶対的な意見の違いがある為、まとまらないのです。

そこで、次の問いをしました。

公園は、何のための場所ですか。

一番大切な目的を考えてごらんください。

子どもたちから出てきたのは、先の2つでした。

「遊ぶための場所」と「休むための場所」です。

意見の分布は、「遊ぶ」が13人。

「休む」が16人です。

ここでも熱のこもった意見のやり取りがありました。

「前に公園に行ったとき、遊んでいる人よりも休んでいる人の方が多かったので、休む場所だと思います。」

と孫入さん。

「公園の『園』っていう字は、きっと「遊ぶ」っていう意味があると思います。だって、遊園地の園に同じ字が使われているからです。だから公園は遊ぶ場所だと思います。」

と米田くん。

意見がぐんぐん知的になってくると、1つ意見が発表されるたびに拍手が起きるようになりました。

ここで、「お家の人にも聞いてみたい！」という子も数名いたため、インタビューを実施することにしました。

いよいよ学習のまとめの段階です。

=====抜粋ここまで=====

社会科の学習には、ある“規則性”が存在します。

それは、学びの対象が少しずつ広がっていくということです。

例えば、子どもたちにとって最も身近な公共施設は「学校」です。

ですから、一年生の初めは学校探検から学習をスタートします。

どんな教室があるのか。

どんな勉強をするのか。

どんな決まりがあるのか。

1つずつ学びながら、公の施設の使い方やルールを学んでいきます。

そして、少し活動の範囲を広げて「公園」に行きます。

学校の次に、身近な公共施設です。

遊具を調べたりした記憶がある子もいるかもしれません。

続いて2年生では、「商店街」や「郵便局」の見学に行きます。

「お店」や「手紙」といった、身近な“もの”から少しずつ学びの範囲を広げていきます。

3・4年生では、主に「地域」の学習をします。

探検をし、地図記号を学び、地図を作成する。

警察、消防署、ゴミ処理センター等の見学に行く。

地域の産業を知り、地域の偉人について学ぶ。

これも、少しずつ学習の対象が広がっていく組み立てになっています。

5年生では、学びの対象が日本全体に広がります。

日本の産業を主に学びながら、それぞれの地域において特色のある経済活動がなされていることを学びます。

そして、6年生では、学習対象がさらに2つ広がります。

1つは、「世界と日本との関わり」に代表されるように、学習の範囲が世界に広がる事。

そしてもう一つが、時間を遡って学ぶ「歴史学習」が加わることです。

先の公園探検に話を戻します。

1年生の白熱した論争。

少しでもその雰囲気伝わったでしょうか。(尚、この子たちは今は中学生です。)

何の話をしているのかというと、公園の目的を確定しようとしているのです。

遊ぶためか。

それとも休むためか。

一所懸命考えた上で、答えを確定していきました。

結論から言います。

公園の目的は、主に6つあります。

次号に答えを乗せますので、ぜひここで一度考えてみましょう。

そして、いくつか答えが浮かんだらさらに考えてみて下さい。

公園の一番の目的とは一体何か。

そうすると、普段当たり前の様に目にしている公園の見方が変わってくると思います。



一体、公園の目的とは何か。  
ぜひ考え、推理してみてください。

再び、当時の通信から抜粋してみます。

=====抜粋ここから=====

お家の方にもインタビューを終えた子ども達。

いろんな話を聞いたようで、公園に対する知識がさらに増えたようでした。

(ご協力いただき、ありがとうございました。)

ここまでの学習は、私の方からは新たな情報は一切与えていません。

それでも、子どもたちは情報を集め、分類し、さらには熱の入った話し合いを展開しました。

公園の「園」の字に着目したり、自分が公園に行った時の体験と結び付けたり、1年生でここまで高め合えるのかと素直に驚いております。

そして学習の最後は、子どもたちだけでは集めきれない情報を扱うことにしました。

一斉授業の段階です。

ここで、初めて私の方から「教え」ました。

公園には、色々な目的があります。

何のために公園は作られているのか、順番に見ていきましょう。

スマートボードに写真を映し出ししながら、1つずつ説明を加えました。  
まず、次の2つです。

①あそぶため

②やすむため

これは、子どもたちが導いた内容です。

それぞれ列挙してノートに書かせました。

他に、何のために公園が作られているか、知っている人？

すかさず手が挙がりました。

井出くんです。

「地震とか会った時に、避難するためです。」

凄い！とすかさずほめました。

お家の方と話す中で教えてもらったそうです。(ご家庭でこうしたお話がで

きることは、今度詳しく載せようかと思いますが学習内容定着の上で極めて大きな意味を持ちます。)

### ③ひなんするため

同様に、「他にも知っている人？」と問いながら進めました。

実は、公園の目的は大まかに言えば全部で6つあります。

ですから、あと残り3つです。(※ぜひ、読み進める前に残りの目的を予想しながら読んでみてください。)

教室でも同様に問いましたが、この先は難航しました。

近くの人と相談もしましたが、答えは中々出てきません。

そこで、ヒントの写真を見せました。

公園で、あることをしている写真です。

見せた瞬間に大きな声が上がりました。



「バザー！」

「フリーマーケット！」

参加したことがある子も多かったようで、元気に声が上がりました。

目的の4つ目は

### ④ぎょうじをするため

です。

後に詳しく書きますが、公園制度が始まったのは明治の初めです。

その頃から、公園に市を集めて開いて、地域の市場を活性化させる狙いがありました。

現在もフリーマーケットや、お祭りにスポーツ大会等様々な行事が行われています。

さて、残りは2つです。

同様にヒントの写真を見せました。

続けて見せたのは、大都会の真ん中にある公園の写真です。

実際に通信でお見せすることはできませんが、スマートボード上で1枚の写真に「カーテン」のようなものをつけて、情報を分割して見せました。

まず最初は、立ち並ぶビル群を。

そして次に、カーテンを全開にして公園を見せました。

見た瞬間に、閃いた子がいました。

井筒さんです。

次のように発表しました。

「けしきをきれいにするためです！」

大正解です。

周りの子から、大拍手が起こりました。

#### ⑤まちをうつくしくするため

今回授業を作るにあたって、近代都市計画の本を4冊ほど読みました。

一番参考になったのは、『明治の東京計画』（藤森照信著）という本です。

その中には、江戸から東京へ移る時に日本の街をどのように作っていくかということが詳細に書かれていました。

その頃から、公園に関する法整備がなされ、政府の方針も打ち出されることとなります。

「東京をパリのように」との思いで、景観を重視した街づくりが行われ、そこに公園の置かれた目的も含まれました。

いよいよ、次の6つ目が最後の目的です。

これが、超難問です。

ヒントの写真は、以下のものを見せました。



さて、あと一つは何の目的があるのでしょうか。

続きます。

青々と茂った公園の木々。

この写真を見つめながら、子どもたちは公園の最後の目的を考えました。

次々と発表が出る中、特に手を挙げていたのは橋和田くんです。

間違いなんてお構いなし。惜しかろうが遠かろうが関係なく、何度も何度も「はい！」と勇ましく手をあげます。

その果敢な姿勢を、褒めちぎりました。

チャレンジを続けている姿勢が素晴らしい、と。何度間違っても挑戦し続ける人が、いつか答えにたどり着くんだよ、とも言いました。

そうやって褒めるうちに、挑戦者の数がさらに増えました。

そして、本当に最後は橋和田くんが答えを言い当てました。

「ばい菌をやっつけるためです。」

これが正解でした。

#### ⑥くうきをきれいにするため

分かりにくいかと思ったので、植物の「呼吸」の話を行いました。

「植物がみんなと同じように息をしているんだよ。」と話した時は、どよめきがおきました。

例えば、大気汚染の原因になっているNO<sup>2</sup>という物質があります。

このNO<sup>2</sup>を、イチヨウの成木1本が1日に760mg吸収するとのデータがあります。(車が3km走って排出するNO<sup>2</sup>量に相当します。)

植物たちが、空気の汚れをきれいにしていると知り、子どもたちは目を丸くしていました。

さて、これで制度としての公園の目的が出揃いました。

遊び、休み、避難、行事、景観、空気。

ここで、改めて問いました。

この6つのうち、公園において一番大切な目的はどれだと思いますか？

子どもたちの意見は、休み、避難、景観、空気に集中しました。

理由も発表しました。

もちろん、どれも非常に大切な目的であり、順位をつけることは難しいかもしれません。

しかし、公園制度が始まった当時は、明確な目的がありました。

その話をして、授業を終えることにしました。

『公園の誕生』(小野良平著)という本に、制度が始まった当初の目的が次のように書いてあります。

「人口稠密の都府に園林及び空地を要するは、其因由一にし足らずと雖も、第一に衛生上より論ずれば、街区相連なり軒盈相望むの間之に間在し之に連帯する開豁清潔の場所あるに非ざれば、住民日常の生活、産業より生ずる大気の汚敗を更新するの路なく、有害の悪気市区に沈滞して病夭の媒を為し其の浄除揮散を求むるも得可らず。是家に庭なく、室に窓なきに同じく、亦身体に肺臓を欠くに異ならざるなり」

ここに示されているように、公園設置の第一の目的は「衛生」であった。

もちろん、教室ではこの文章を読んだわけではありません。

本を実際に見せ、それを持ちながら易しい言葉で説明を加えました。

19世紀はコレラに代表される伝染病がたびたび大流行し、当時の大きな社会不安を作っていた為、「衛生」の役割は極めて重要でした。

その中で、都市の衛生状態を改善するための装置としての役割が、公園設置の一番大きな理由だったのです。

公園の木々たちは、こうやって長い年月の間、変わることなく新鮮な空気

を私たちの街に供給してくれています。

ここまで説明すると、何人かの子がつぶやきました。

「公園の木って大切なんだね。」と。その通りです、と褒めました。

もしも、最初の問いに戻って「公園にとってなくてはならないもの」を答えるなら、それは「緑」ではないかと思っています。

こうして、計9時間の学習を終えました。(公園シリーズ終了します。長らく紙面にお付き合いいただき、ありがとうございました。)

=====抜粋ここまで=====

この内容を、ほぼ同じ形で昨日4-1のみんなにも問うたということです。

そして、「公園になくてはならないもの」について、いろいろな議論が交わされました。

その上で伝えた6つの目的。

その中には、これから勉強する「災害時の避難場所」という目的も含まれていました。

そして、最も大切な目的は「空気をきれいにすること」。

現代のコロナと同じように伝染病が壮絶な社会不安を与えていた時代に、人々の命を守ろうとして作られたのが公園だったということです。

この勉強を終えた後、野崎君が大きく声をあげました。

「本当にこの勉強面白い！」

普段、何気なく見ていた「公園」には6つも目的があって、そしてそこには色んな願いが込められていることが分かった瞬間でした。

ちなみに、当時担任していた1年生を再び公園に連れて行ってあげた時のことです。

「いつもありがとね。」

と言って、公園の木をギュッとハグする子供たちがいました。

この街には、人々の命を守るための工夫がてんこ盛りです。

身近な「モノ」から、災害の学習をはじめ、広げていきます。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

